

令和5年度 第2回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和6年3月25日(月)10:00～12:30
開催場所	アマホームPLAZA(旧市民交流センター) 3階大多目的ホール
出席者 (15名)	永田委員長, 加世田副委員長, 大庭委員, 吉村委員, 福崎委員, 福田委員, 川内委員 下田委員, 稲田委員, 肥後委員, 三浦委員, 川畑委員, 垣内委員, 松山委員, 西谷委員,
事務局	福祉事務所長, こども未来課, 福祉政策課, 健康増進課, 学校教育課 住用総合支所市民福祉課, 笠利総合支所いきいき健康課・公立幼稚園・公立保育所
〈議題〉	1 開会 2 委員紹介(大庭委員, 垣内委員) 3 協議 (1) ニーズ調査結果報告について (2) 保育士等の勤務実態等に係るアンケート調査報告について (3) その他 4 閉会
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
前回欠席の2名に自己紹介をお願いしたのち、協議を行った。 (1) 奄美市子育てに関するアンケート調査結果報告について 資料1, 1-2, 1-3, 1-4に基づき、奄美市子育てに関するアンケート調査結果を報告 質疑は、以下のとおり (委員) 屋内で遊ぶ場所がない。自然が遊ぶ場所だが雨が多い。親子で一緒に遊べる場所を作してほしい。 (事務局) アンケートでも意見が多かった。新しい施設を作るのは難しいので、利用に至っていない既存の施設を利用者のニーズに合わせて改善する必要がある。 複合施設については、新型コロナや建設費の高騰の影響を受け、見直しを行っている。子育てに特化した遊べて子育ての相談もできる、保護者が寄ってみたいと思える施設を再検討している。方向性等が決まれば会議で報告したい。 (委員) 雨で遊べる場所がない、児童センターは駐車場が2台のみ、公園でのボール遊びが禁止だが市で許可がとれるのか。学校は不便で、体験交流館は少し遠いので近くの三儀山で遊び解放してほしい。 遠征費の負担が大きい参加できない大会があり、内地の高校を検討しているが、それでも費用がかかる。また小学生の遠征費補助はないのか。 (委員) 中学生の部活やスポーツ少年団に対し、県・地区代表や中体連の公式大会など基準を設けて補助をしている。児童規模に応じて予算確保しているので、制限が生じる学校もある。県への要望もしているが遠征費の補助には至っていない。 小学生に対しても、県の代表など限られた団体・個人への補助は実施している。	

(事務局)

公園の利用について、市として利用者から意見を聞き、多くの方がより安全に利用するためにルールを設けているが、周りに気を付けて遊ぶことを教える必要があると思う。
この会議で公園の使用方法は決められないが、多い意見については公園の担当課へ伝えて検討する。あさひ公園や矢之脇公園では年齢に合わせて区画に段差をつけるなど整備している。公園の整備と利用者の意識への声掛けも含め検討したい。

(委員長)

公園は個人で許可を取るようなものではない。自由に遊べるのが公園。担当課とも協議したい。

(委員)

雨の日の遊び場がない。個人がやっている遊び場に空気で膨らむ遊具があり、三儀山体育館やパチンコ店跡地など広い施設にあれば安全で幼児も雨の日に遊べると思った。
中央公園では小学生が多く、小さい子に構わず滑り台も占領して遊んでおり、危険を感じ帰った。遊具の工夫をしてほしい。
仕事が決まったが預けられない保護者の不安がある。預かりが確定したうえで仕事を探せたら安心。保育所は就労が条件なので、途中で仕事をする方にはどうかと思う。

(事務局)

保育所・預かりは求職活動中でも申込みや利用ができるが、3ヶ月の制限がある。就職後では空きがない状況もあるので周知していきたい。

(委員)

4月受入れのうち3名は求職活動中。5月末認定切れなのでそれまでに就職できていない場合は退所となる。4月1日で定員いっぱいになるので、夏以降、待機が増え令和5年度3月には50人程度あったと思う。年度途中の受入れを今後考えないといけない。

(事務局)

どの保育所も4月で定員が埋まる。特に0歳児は受入れ枠が少ないので待機になる。各施設の保育士不足の解決策を今後検討していきたい。

(委員)

保育士不足は子育て環境の悪化に繋がっている。2,3年応募が来ず、養成校に通っている奄美群島出身者がいない。結婚や出産後退職して戻らないので平均年齢だけが上がり、40,50代が中心で定年をむかえ、さらに減っていく。このような状況で、土日の保育は難しい。特に土曜は保育士を休ませるために自宅保育をお願いしている現状がある。アンケートに「土曜利用しづらい」とあるが、保育士不足による苦肉の策と理解してほしい。
鹿児島市が全国ワーストだったが、潜在保育士の就職奨励金採用時10万、1年度10万。民間保育の処遇改善に月2万とお金をかける解決方法もある。ぎりぎりの中では不適切保育や命につながることもある。全国で養成校も減っているのに、高校生に対する魅力の発信も進めている。市と一緒に予算含め保育士確保に力を入れてほしい。計画内で実行性のあるものにしたい。
港町児童センター運営に関する研修でアーケードの空き店舗を使った子育て支援事業を知る機会があった。買い物も兼ねて雨の日も使える。奄美FMの商店街を使った大規模なイベント等を活用していけたらよいと思う。

(委員長)

保育士不足は大事な課題なので取り組む必要がある。保育士のアンケートの説明を。

(2) 保育士等の勤務実態等に係るアンケート調査報告について

資料2に基づき、保育士等の勤務実態等に係るアンケート調査結果を報告

質疑は、以下のとおり

(委員)

子どもの遊び場がないことに衝撃を受けた。周りからも要望を聞くが実現しないので、自分で作ろうと思っている。視察した神戸(個人)施設は市役所前で開設。
商店街は家賃が高いので別の場所で計画中。行政と民間でできることが違うので、できることをしたい。自分の計画を情報発信している中で、保育士から「子どもは好きだが現場は嫌」との意見があった。保育士の待遇を一番に考えてほしい。
「産後、毎日ワンオペで育児、仕事はしていないので保育所には入れず、やっと幼稚園に入園した。イベントなどでも周りに馴染めなかったが園の読み聞かせグループに入れたことを感謝している」と話していた転勤族の方がいた。アンケートの自由記述を読んで、胸が痛くなった。育児の苦しさや身内がいな大変な思いをしている方のサポート、手助けをしてほしい。

(事務局)

ハード面では新庁舎前の広場はイベントでも使用できるので、子育てサークルなどでも活用してほしい。転勤の方について、アンケートでも「相談する人がいない」との回答がある。空き店舗の利用、体育館での空気遊具を用いた無料開放などの工夫・活用しながら居場所作りを検討していきたい。

(委員)

「子育て支援拠点事業を利用していない」回答が多く、「保護者の横の繋がりがいい」にも関係する。今後の取り組みや方向性を聞きたい。
室内遊び場は、公園や空港内で遊び場をしている企業ボーネルンドが自治体と協力し、保護者の子育て相談も兼ねる施設(有料)を運営しているので、複合施設の参考にしてほしい。遊具のみでは集まらないのでコミュニティができる機能があることが大事。
ボーネルンドについて:商業施設等において有料で、子どもが生き生きと遊べる工夫や室内外で提供できる遊び場をプロデュースしている。

(委員長)

施設の管理はお願いしているが、市の方向性も大事である。利用率の対応について。

(事務局)

駐車場として近隣の市の管理地を検討したが、工事車両が優先ということで利用できなかった。
また現在、子育て支援センターの隣接道路が工事中で近くの有料駐車場からセンターまでの往来が難しい状況がある。このことが、利用率が伸びない理由の一つだと考えている。駐車場の確保も含めて、活用しやすい取り組みについて工夫できることがないか検討したい。

(委員長)

子育て支援センターについては、知らない方も多いので周知の方法について

(委員)

朝仁保育園のHPだけでなくインスタなどSNSの活用を検討している。

(委員)

転勤先での一人目育児は本当につらい。言葉が通じない。家族は帰りが遅い。そんな中、前住所地には保育所併設の子育て支援センターが8箇所あり、保育士が常駐。相談し易かった。知らない人しかいない土地で、子どもの成長と一緒に見てくれる人がいるのが心強かった。市が計画している複合施設は数年後。今の保護者が利用できないので早く居場所を作してほしい。笠利・住用にも公園を整備してほしい。

(委員)

私も嫁いで子育てが始まったが、友達ができたのは支援センターのサークルで、ほとんどが転勤族の母親であった。話すだけ、行くだけで楽しくて、今でも繋がっていて相談できている。親子の居場所は継続してほしい。転勤族は、ホームページをみる。「奄美市子育て」で検索するので、情報発信についてもいろいろと取り組んでほしい。

(事務局)

奄美市ではまーじん子育て応援団を去年4月にリニューアルし、行政情報を載せている。様々な意見を聞きながら、民間の情報も発信するなど、ブラッシュアップしていきたい。

(委員)

健康づくりの委員もしていて、地域の老人のことは大体把握しているが、子育て世帯については把握が難しい面もある。赤ちゃんのいる世帯もいるようなので、自治会として地域の公民館などを使って、遊んだり、おしゃべりしたり、親子のコミュニケーションの場を作りたいとも考えていた。複合施設のワークショップなどにも参加して、できることを楽しみにしていたが、その後音沙汰がない。どうなっているのか？
あと、保育の補助などの人材として子育てが終わったお母さんたちをうまく利用できたらよいと思う。

(委員)

たくさん意見を伺うことができ嬉しい。
幼稚園の利用者は、転勤族が三分の一くらいはいる。皆さんの意見を聞いて、子育て世代にもっと寄り添う必要性を感じた。幼稚園を開放したりしているので、ぜひ利用してほしい。

(委員)

学生は保育士になるために実習で現場の先生と接し、魅力ややりがいを感じている。就職後の収入が低いことへの不安もあるが子どもが好きで希望しているので、現場で育ててほしい。今入学者は減って、本校も厳しいが、高校生では保育希望者も多いと感じる。保育の魅力ややりがいは高校生では遅いので、中学生から話す機会があってもいい。
授業の一環としてファミサポで保護者の声を聞く機会を作り、学生たちは母親の頑張り、子どもたちの成長を喜ぶ姿をみて、子育てっていいなという気持ちが生まれているようだった。高校生、中学生にもそういう機会があるといいと思う。
20年前から空間・時間・仲間がなくなってきているが、奄美は自然も人との繋がりもある。県外の学生も学生生活を喜んでいるので、いいところを取り入れてほしい。

(委員)

住用へUターンだが、遊び場へは車が必要。休みの日は子ども達に自宅を開放しており、校庭に連れていくこともあるが、一人では限界がある。
保育士は大変だが魅力ある仕事だと思う。休憩や子どもから離れる時間がないと大変だと思う。例えば資格がなくても子育てが終わった母親が休憩時間に交代ではいるのはどうかと思った。

(委員)

朝日の第2(学童)が130名いると聞いた。待機を出さないために伊津部から送迎しているが、安全面が心配なので小さいプレハブを建ててほしい。第2は雨漏りがしている。

(事務局)

伊津部の協力を得ながら受け入れをしており、学童の数を増やす要望もしている。雨漏りは担当より現場の確認をして、養生のため再度現場入りをする予定である。

(3) その他(今後のスケジュールについて)

資料3に沿って、子ども・子育て会議の今後のスケジュールについて説明

(委員長)

アンケートを踏まえた皆様の意見を基礎資料として、4月以降、第3期子ども・子育て計画の策定を進めていきたい。行政、地域や学校、保育園、民間の支援として進めていく必要がある。

今後のスケジュール概要を説明し、会議終了